

特別助成 東日本大震災の被災者を元気づける事業（コミュニティ強化支援）

## 「被災地の子どもたちを元気にする コミュニティカフェin上田」事業

### 自然体験・地域交流・食育を通じて 福島の子どもたちを継続的に支援

東日本大震災から5年、今なお福島県の子どもたちは原発事故の影響で屋外の活動に制約がある。東京を拠点に病気の子どもを支援してきたNPO法人こどもプロジェクトは、長野県上田市で福島の子がのびのびと自然と触れ合うリフレッシュ事業を展開。地域が協働して継続的に受け入れる体制づくりを進めている。



信州上田の豊かな自然の中で「のびのび」遊ぶ福島の子どもたち



冬は上田市の番所が原スキー場でリフレッシュ

#### リフレッシュ滞在の交流拠点として 上田市にママカフェの常設を推進

こどもプロジェクトは被災親子の支援の一環として、2014年より、外で思うように遊べない福島の子どもたちのために、信州上田で2泊3日の自然体験や食育プログラムを行う「ふくしまっ子のびのびリフレッシュin上田」を開催している。AJOSCへ助成申請した事業は、リフレッシュ滞在中の交流拠点となる母親たちによるコミュニティカフェを上田に開設するというものであったが、この事業は一度白紙に戻されることになった。それには、カフェの建設予定地の所有者である現地社会福祉法人の事業に変更があり、それに伴い土地の無償賃貸契約が見直されたという経緯がある。こどもプロジェクト理事長の福田恵美さんは、事業へ

の思いを次のように話す。

「リフレッシュに訪れた子どもたちが安心して食事ができ、福島のママが心からくつろぎ、上田のママと交流し支え合う子育て支援の拠点として、そして地域の子育て中のママの仕事の創出の場として、ママカフェを上田に常設できたらいいと考えています。そのために月に1回、発芽玄米や地域の新鮮な野菜を使った四川料理教室を開催して、上田のママたちに研修を行っているところです。本年度の開設は見送られることになりましたが、引き続き実現を目指していきます」。

以上の事情を踏まえて、AJOSC事務局との協議の結果、同プロジェクトによる福島の子どもたちのリフレッシュ事業の拡充とその運営のために本年度の助成を活用することになった。

#### 夏・冬・春休みに2泊3日で 体験型教室に福島っ子が親子で参加

「ふくしまっ子のびのびリフレッシュin上田」は夏・冬・春休み（2015年8、12月、2016年1、3月）に開催され、延べ100人を超える親子が参加した。リフレッシュには福島に住んでいる親子と、福島から東京に避難している親子を募り、それぞれに悩みを持つ母親たちがわだかまりをなくして交流できるようにしている。「立場は違って子どもたちへの放射能の影響を心配していることでは皆同じ」であり、応募が殺到し抽選になることもあったという。

滞在中は、冬はスキー、夏は川遊びなどをして自然と触れ合い、屋外でバーベキューを楽しんだり、著名な地質学者である東京大学の加藤泰浩先生による科学教室、忍者

修行、親子クッキー教室など多彩なプログラムを実施。また、地元の子育て支援団体「ばれっと」が地域交流会を開催し、ママカフェ研修メンバーが福島の子どもたちと子育てや食育について意見交換をしたり、移住を視野に入れた情報提供などを行った。

「上田に来ると親子とも解放されて、虫を触ったり、草の上に寝転んだりして本当にのびのびと過ごしています。保養目的というだけでなく、子どもたちが自然の中で楽しく学んでいける仕組みをつくってあげたいと思っています」と福田さん。今後は上田市でのこの取り組みをモデル事業として、国や自治体に働きかけ、地方創生と関連させて全国に展開していくことを目指す考えだ。



パン教室で上田地域の人々と交流



地元の子育て支援団体が開催する子育て講演会

助成団体: 特定非営利活動法人 こどもプロジェクト <http://kodomo-project.com>



#### 地域のネットワークを築いてリフレッシュの拠点づくりを

コミュニティカフェ開設の事業が予定通り実施できなかったにもかかわらず、柔軟に対応していただけたことに感謝しています。リフレッシュ事業は、本来国の政策として行うべきであり、それに向けて民間の支援は不可欠だと考えています。今後も地域のネットワークを築き、長期的な視点で受け入れの拠点づくりに取り組んでいきたいと思っています。

NPO法人 こどもプロジェクト  
理事長 福田 恵美さん